



校長室だより

松江東高等学校

第34号

令和6年7月22日



○終業式講話「出じれー旅」

「出じれー旅」とは、今NHKで再放送している沖縄を舞台にしたドラマ「ちゅらさん」でのおばあのセリフで、「命(ぬち)どう宝」などで有名な沖縄の格言の一つです。一步家を出たら、見知らぬ土地へ旅に出るのと同じで、すべて自分で判断しないといけない。トラブルに遭っても冷静に考え方行動しないといけない…自分で考え、志を持って主体的に生きよという意味だと理解しています。だから親は、かわいい子には旅をさせるのでしょうか。



松江東高校のグランドデザインに「自立への道程」を掲げています。昨年度赴任時の校長挨拶で、この標語を掲げられた永瀬元校長先生の言葉を借りて次のような説明をしました。

「自立は、自ら立つと書くが、自らを律する自律も含んでいる。単なる道でなく過程を大切にしてほしいと思い道程(みちのり)としている。この言葉には、みなさんに自立した18歳としてこの東高を卒業してほしいという思いを込めていた。自立した姿とはどういう姿なのか、そのために何をすべきか自分自身でしっかり考えてもらいたい。考えることが充実した高校生活3年間の第一歩となる。」

AKB の「365日の紙飛行機」で「その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ」と言っています。校長室だより33号で「自分らしく生きる」とはどういうことか、「自立への道程」とともに考えて欲しいと言いました。自分らしく生きている姿、自立した姿は思い浮かんでいますか？

運は三方向からくると言います。一つめは、小さな挑戦を繰り返しながら自らが努力して運んでくる運。2つめは、その挑戦や努力を見ていた人や支えてくれた人が運んでくる運、あるいはその人の志が運んでくる運。そして3つめが、小さな気遣いを積み重ねていくことで見えない誰かが運んでくる運。

小さな挑戦、小さな気遣いを積み重ねることで、時間はかかるけど、遠回りでも、きっと運はめぐってきます。志に人が集まってきた。奇跡も偶然には起こりません。努力の軌跡、轍(わだち)の先に起こるものだと思います。勝負は時の運と言いますが、それも結局は必然です。運も奇跡も必然だと思います。

1学期、県総体では学校対抗で男女総合3位という好成績を残し、全国大会や中国大会に出る部活動も多く出ました。書道部も書道パフォーマンス甲子園への出場が決まりました。これ以外でも粘り強い戦いや努力を1学期たくさん見聞きしました。ボランティアやイベントに積極的に参加する部活動や生徒も多く感激しました。結果は出なくても、努力した先に見えた風景、主体的に取り組んだからこそ見えた風景が格別だった人、その過程でかけがえのない人、モノ、コトを手に入れた人も多かったと思います。

後悔には3種類あると思います。挑戦しなかった後悔、挑戦したがうまくいかなかった後悔、そして主体的でなかった後悔です。思い残すことがないところまでがんばった人もいれば、思い残すことが多い人もいます。思い残すことが多い、悔しいのは、それだけ熱い思いを持って取り組んだ証です。自分で考え志を持ち主体的に取り組んだ証です。高校時代が、夏休みが出じれー旅であることを期待しています。